

マンツーマンコミッショナーのてびき

熊本県 U12 部会 マンツーマンコミッショナー委員会

1. コミッショナーの役割

「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について」に示されている通り、ゲーム中はマンツーマンを監督・管理することが任務です。

- ①ゲームにおいて、マンツーマン推進を図るために、マンツーマンかゾーンかを見極める。
- ②起こっている事象に対して客観的に判定をする。

気になるところを声かけし、子どもたちが正しいマンツーマンでミニバスを楽しむことができるようにすることをコミッショナーの役割と捉えて任務にあたってほしいと思います。

2. コミッショナーの重要な視点

- 1) マッチアップしているか、または、マッチアップしようとしているか

(人=マンツーマン、場所=ゾーン)

→オフェンスのスタート

→カッティングに対して、適切にマークしているか(ついていっているか)

→トラップの後

→ペネトレーションに対するヘルプの後

- 2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン(ボールとマークマン)を適切に実行しているか

※首振りには、自分のマークマンを中心に見ているか

3. 審判との連携

- (1) 試合前

TO席で、主審、副審とともに試合を運営していくという意識で、コミュニケーションをとりましょう。

レフリー同士のプレカンファレンスのように、ゲーム前に確認することが大切です。

- (2) 試合中

短い時間ではありますが、クォーターごとに気になることを話し合ひましょう。黄色旗を上げたケースではどういう場面なのか、その後どうなっているかも情報を共有しておきます。

4. 基本的な見方

- ①コミッショナーは立って行くことを基本とします。黄色旗、赤色旗両方を準備します。
- ②ゲームの始まりにはどの程度マンツーマンについて指導されているかを感じ取るようにします。(マッチアップのボイス、スタンス、ポジションのとり方などから)
- ③誰と誰がマッチアップしているかよりも、きちんとマッチアップする意識が感じられるかどうかを重視して見るようにします。(チェック表の記入は、サブコミッショナーと連携をしながら)
- ④ボール保持が変わった時に、ボール周辺ではなく、ボールから遠いプレイヤーのマッチアップを見ることが大切です。誰にマッチアップしているか、ボールサイドとヘルプサイド

を意識しているかを中心に判定します。

- ⑤前半、特にクォーターの始まりにチームのマンツーマンの様子を捉えることが重要です。コーチがマンツーマン、マッチアップのコールなどを意識した声かけをしている場合は、練習で意識して取り組んでいると考えられます。コーチの声かけに耳を傾けることも大切です。
- ⑥気になるときは、ベンチの方に歩み寄り、違反があったと判断したら黄色旗を上げたまま、コーチに声かけをします。(前半はベンチ前でそのチームがディフェンスになります)
※ベスト8以上(目安です)のチームには声かけはしません。
- ⑦ボールが高い位置にある時に、ミドルラインをまたいでゴール下周辺にいるプレイヤーがいた場合は、その3線のとり方に注意をはらいます。そのディフェンスがマッチアップを意識しているか、ドライブがあった時にどうなるか、マッチアップしているオフENSEの攻め気はどうかなど総合的に判断します。
- ⑧スローインの時には、スローインするプレイヤーにマッチアップしているプレイヤーに注意をはらいます。(オフボールトラップで一発赤旗のケースもあるため)
- ⑨トラップがあった時には、オンボールの所よりも残りのマッチアップに注意をはらいます。また、トラップが終息した時にマッチアップの意識があるかどうかを判定します。
- ⑩オフENSEプレイヤーがオフENSEに参加する気がない(あるいはコーチから参加しないでいいと言われている)場合は、ディフェンスにマンツーマンの意識があっても違反しているように見えることがあります。こういったオフENSEからはゾーンであるかどうかを判断する情報は出てきません。(よって旗はあげない)必要であれば、オフENSE側に声かけをすることもあ

5. コミッショナーの判定基準の考え方

コミッショナーは、ゲームの状況を考慮しながら判定を行うべきではなく、事象のみに対して客観的に判定する。

→心情やゲーム状況を考慮に入れながら判定することは、判定者の主観が大きく含まれることになり、判定基準の幅が広がることに繋がり、明確性に欠けることになるため。

【マンツーマンディフェンスの基準規則】

1. マッチアップ



図5

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフENSE側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。

・このマッチアップの基準はマッチアップエリア(3ポイントライン(6.75m)を目安とする:ゴールから7m)内では常に適用される。

・ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、コミッショナーにわかること。

【マッチアップの3つの原則】

- ・「アイコンタクト」とは、マークマンを意識して、どこにいるかを目でとらえていること。
単なる首ふりはダメ。
- ・「言葉のサイン」とは、ボール、○番（マークマンのNo）、ヘルプ、スイッチ、ローテーションなど声に出してマッチアップを明確にする。
- ・「指さし」とは、自分のマークマンとボールマンとを指さししてマッチアップを明確にすること。単なる指さしのジェスチャーだけではダメ。マークマンをとらえていなければならない。

【基準規則・補足解説】

◆マンツーマンディフェンスの見分け方

- マンツーマンの意識がある。（アイコンタクト・声のサイン・手のサイン・ポジション 等）
- ボールや相手とともに動いている。
- 相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。
(オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。)
- マッチアップエリア以外において、チームとして個々のオフENSに対してピックアップするディフェンスを行う場合は、スローインするオフENSにマッチアップしなければならない。

◆オールコートのディフェンスの対応

- ヘルプサイドのディフェンスは、距離における規定はないがミドルラインとの位置関係は、基準規定通り。
- ワンパスアウェイ、ツーパスアウェイにおけるディフェンスのボール ONLY はゾーンディフェンスであることの確認。

2、プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時（フルコート、3/4 コート及びハーフコート）でもマッチアップの基準に合致すること。

注意点：様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である。



図9

【赤旗を上げるタイミング】

赤旗を上げるタイミングは、黄色旗が上がっている状況（違反している状況）のときに、その違反しているプレイヤーにより明らかにオフENS側のプレーが影響を受ける場合は、赤旗を上げるようにしなければならない。

【例1】

ヘルプローターション後に、ヘルプサイドオフENSプレイヤーのオフボールディフェンスマンがボールサイド側に残ったまま（黄色旗が上がっている状態）で、次のドリブルペネトレーションに対してヘルプディフェンスすることは許されない。



図6

【例2】

ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられない場面の時、

- (1) ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- (2) パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
- (3) 移動が容易に行える距離にある時（自分のマークマンとボールマンの距離の目安：2～3m）

トラップ（ダブルチーム）に行き、ヘルドボールにしたり、ボールを奪い取ったり、またはそのことの影響

を受けパスカットされたりしたときには、

赤旗を上げるべきである。

3、オンボールディフェンス

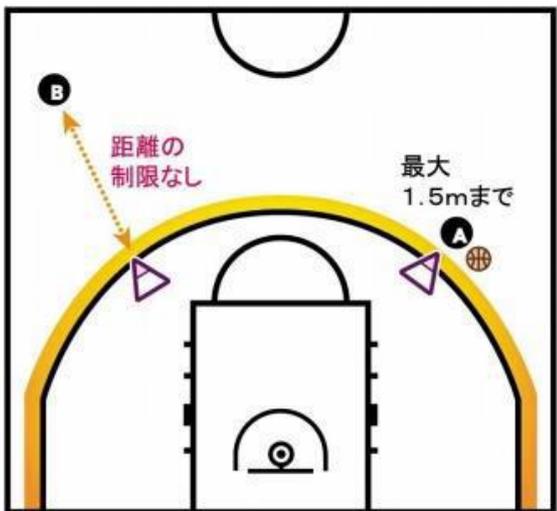


図4

ディフェンス側プレイヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大1.5メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフense側プレイヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレイヤーがボールマンにつく意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをすること。

4、オフボールディフェンス



図5

ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフense側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側（ヘルプサイド）のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン（オフense側プレイヤー）及びボールも見えるポジションを取ること（ボールとマークマンを見る）。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない（ボールが動けば、ボールとオフense側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く）。ただし、フェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフense側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフense側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。ただし、ミスマツ

子を解消するためにスイッチすることは可能。(ミスマッチプレイヤーどうしが主体的にスイッチする場合)



図8

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン（リングとリングを結ぶ線）である。ただし、ヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは違反である。

【理論】

ワンパスアウェイ、ツーパスアウェイの時、ボール中心は構わないが、ボール ONLY となってはいけない。

5、ヘルプローターション



図13

ボールを持っていない選手にマッチアップするディフェンス側プレイヤーは、リングを守るために、オンボールディフェンス側プレイヤーをヘルプできる。

オンボールディフェンス側プレイヤーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、リングへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。オフボールのオフェンス側プレイヤーが、リングへカットすることをヘルプすることも許される。



図14

オフボールディフェンス側プレイヤーは、ヘルプディフェンスのために一時的にディフェンスポジションを変えること（ヘルプローターション）が許される。ただし、ヘルプディフェンス後、全てのディフェンス側プレイヤーは、直ちにオフェンス側プレイヤーとマッチアップ（前記した方法で明確に）しなければならない。

6、スイッチ

スイッチはスクリーン、トラップ後、ヘルプ後と“ラン&ジャンプ”の状況で許されるが、オフボールオフェンス側プレイヤーのポジションチェンジに対するスイッチは違反である。

ディフェンス側プレイヤーがスイッチした場合、プレー中に、ディフェンス側プレイヤーが直ちに新しいオフェンス側プレイヤーとマッチアップ（前記した方法で）したことが、コミッショナーに認識できるように明確にすること。

7、トラップ



ボールを保持している選手をトラップすることは許される。ただし、トラップ後は直ちにマッチアップを明確にしなければならない。

ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおり。

- (1) ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- (2) パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
- (3) 移動が容易に行える距離にある時（自分のマークマンとボールマンの距離の目安：2～3m）

○トラップ後とは、トラップされた選手からボールが展開された（さばかれた）時点をいう。その時は、直ちにマッチアップ基準を満たすようにプレーしなければならない。

すなわち、マッチアップの3つの原則により、マッチアップを明確にしなければならない。

6. 違反があった時

(1) 赤旗について

○1回目の赤旗は「警告」です。主審は、TO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、警告（1回目）であることを明確に伝える。この間、副審はコート内の選手を把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。コーチから選手に説明が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、説明を行わせた後、速やかにゲームを再開させる。

○2回目の以降の赤旗は「マンツーマンペナルティ」となります。主審はTO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、マンツーマンペナルティを宣する。（相手チームに1本のフリースローが与えられ、そのチームのスコアラーステーブルの反対側のセンターラインの延長上からのスローインで再開する。）※2020年度から

(2) テクニカルファールについて

黄色旗で声かけして指導してくれない時は、改善（選手のプレーについての改善）されていなければ赤旗を上げます。そこではコミッショナーから指導するように促すので、それでも指導してくれない時は、ゲームの運営の妨げになっていますので、テクニカルファールを主審が宣します。また、コミッショナーに対して、暴言等がある場合もテクニカルファールを主審が宣します。

7. 熊本県のチームに気を付けていただきたいこと

- 手のサイン等があっても「明確に」という文言が当てはまらない場合、コミッショナーが「マンツーマンディフェンスをしていない」と判断する場合がある（体の向きやポジショニングの指導をお願いします）。
 - オフボールディフェンスにおいて、ボールとマークマンの位置を確認し、自分のポジションを確定するための首振りには認められるが、ポジションを固定（動かない）しての首振りは「常に」という文言に反する。
 - オフェンスが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りではない（「常に移動しなければいけない」ではない）。
 - 制限区域内にオフェンスがいる時点では、「予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレーヤーをトラップすることは許される」とあるが、あくまでトラップが許されるだけであり、トラップとは三原則に基づいたトラップのことである。（ボールマンディフェンスが制限区域内を守るために、中途半端なポジションを守ることは許されない）。
 - （熊本県では）赤旗が上がったが、ブザーが鳴らずに速攻が決まった場合でも、赤旗が上がった時点で違反行為があったとみなし、赤旗が上がった時点までゲームを戻すため、ノーカウントとする。
- ※基本的には、このようなことが無いようにコミッショナーをされる方は気を付けてください。

8. U12 と U15 の相違点

- ・トラップ三要件（U12）
- ・技術不足は罰しない（U12）
- ・予測に基づいていると判断した場合は旗をあげない（U15）
- ・4Q、OTの最後の2：00における違反は1回目でも赤旗の対象とできる（U15）
- ・4Q、OTの最後で赤旗があがったまま時間が終了した際に、フリースローを行っても勝敗に関係のない場合は処置しない（U15）
- ・マンツーマンペナルティによる退場：U12は3個、U15は2個

9. おわりに

「マンツーマンディフェンスの基準規則」の「判定に際しての留意点」にもありますが、コミッショナーの役割は誤って違反した選手を積極的に探し取り締まることではありません。

マンツーマンを普及、推進し、円滑に試合運営を行うことが最大の目的です。

つまり、子どもたちが正しいマンツーマンを身に付け、バスケットボールに親しみ、楽しみ、バスケットボールに生涯関わり続ける素地を養うことが大切だと思います。

クォーター間、ハーフタイムなどで審判とコミュニケーションをとったり、コーチにしっかりと説明したりしながら、子どもたちのために円滑な試合運営を心がけてコミッショナーの任務を担っていただきたいと思います。

また、ディフェンスだけに目を向けるのではなく、オフェンスの仕方についても合わせて考えていくようにしましょう。マンツーマン推進の根幹には、「個の育成」があります。子どもたちのレベルアップのためにも熊本県として取り組んでいければと思います。

**2021年度
熊本県コミッショナー講習会**

1. コミッショナーの役割

「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について」に示されている通り、ゲーム中はマンツーマンを監督・管理することが任務です。

①ゲームにおいて、マンツーマン推進を図るために、マンツーマンかゾーンかを見極める。

②起こっている事象に対して客観的に判定をする。

気になるところを声かけし、子どもたちが正しいマンツーマンでミニバスを楽しむことができるようにすることをコミッショナーの役割と捉えて任務にあたってほしいと思います。

2. コミッショナーの判定基準の考え方

コミッショナーは、ゲームの状況を考慮しながら判定を行うべきではなく、事象のみに対して客観的に判定する。

→心情やゲーム状況を考慮に入れながら判定することは、判定者の主観が大きく含まれることになり、判定基準の幅が広がることに繋がり、明確性に欠けることになるため。

コミッショナーの重要な視点

- 1) マッチアップしているか、またはマッチアップしようと敷いているか
(人=マンツー、場所=ゾーン)
 - オフェンスのスタート
 - カットイングに対して、適切にマークしているか(ついていっているか)
 - トラップの後
 - ペネトレーションに対するヘルプの後
 - 2) オフボールディフェンスのポジショニング、ビジョン(ボールとマークマン)を適切に実行しているか
- ※首振り、自分のマークマンを中心にしているか

違反があった時

(1) 赤旗について

「赤色(警告)」の旗が上げられた後、最初にゲームクロックが止まった時、またはボールのコントロールが変わった時に、マンツーマンコミッショナーはブザーを鳴らしてクルーチーフを呼ぶ。

【補足】

赤旗が上がったが、ブザーを鳴らずに速攻が決まった場合でも、赤旗が上がった時点で違反行為があったとみなし、赤旗が上がった時点までゲームを戻すため、ノーカウントとする。

※マンツーマンコミッショナーはボールのコントロールが変わった時のゲームタイマーの時間を記憶または記録しておく。

○1回目の赤旗は「警告」です。クルーチーフは、TO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、警告(1回目)であることを明確に伝える。

この間、アンパイアはコート内の選手を把握し、すぐにゲームが再開できるようにその場に待機させる。コーチから選手に説明が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、説明を行わせた後、速やかにゲームを再開させる。

- 2回目以降の赤旗は「マンツーマンペナルティ」となります。
主審はTO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対し、マンツーマンペナルティを宣する。
(相手チームに1本のフリースローが与えられ、そのチームのスコア
ラーステーブルの反対側のセンターラインの延長上からのスローイ
ンで再開する。)
- マンツーマンペナルティはスコアシートのコーチの欄に「M」と記録する。(チームファウルに数えない)
- コーチに3回のマンツーマンペナルティが記録された場合、当該コーチは失格退場となる。

(2) テクニカルファールについて

黄色旗で声かけして指導してくれない時は、改善（選手のプレーについての改善）されていなければ赤旗を上げます。そこではコミッショナーから指導するように促すので、それでも指導してくれない時は、ゲームの運営の妨げになっていますので、テクニカルファールを主審が宣します。また、コミッショナーに対して、暴言等がある場合もテクニカルファールを主審が宣します。（インテグリティ）

- オフェンスが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りではない（「常に移動しなければいけない」ではない）。
- 制限区域内にオフェンスがいる時点では、「予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される」とあるが、あくまでトラップが許されるだけであり、トラップとは三原則に基づいたトラップのことである。

- ① ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- ② パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができるとき
- ③ 自分とボールをコントロールしているオフェンス側プレイヤーとの距離が約2～3mで、移動が容易にできるとき

- 試合が見渡せる場所（スコアラーステーブルの後方またはスコアラーステーブルの反対側）にコミッショナー席を置く。事前に両チームのコーチにはコミッショナー席の位置を伝えておく。
- メインコミッショナーは試合中、常に旗を持ち、立って行う。

試合開始前に記入をします。
 コーチ氏名は試合前に
 各コーチに記入をしてもら
 います。

※審判との打ち合わせがあ
 りますので、時間に余裕を
 もって行ってください。

赤旗があがった時に、記入しま
 す。クォーターや時間を確認し
 ましょう。警告内容はチェック
 項目を書くといいです。

マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書 2019/8/21 改訂版

1. 担当者

都道府県	コミッショナー氏名	コミッショナー氏名
------	-----------	-----------

2. 大会情報

大会名				試合区分	U12・U15 (男・女)
試合日	年 月 日	会場名			
チーム名	淡		コーチ氏名		
コーチ氏名	濃		コーチ氏名		

3. チェック項目 (下記のチェック欄に「○」または「×」を記入)

項目	内容
1	マンツーマンディフェンスの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
2	ボールや相手と共に動いている。
3	少なくとも、マッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。
4	マッチアップエリア内のオンボールには1.5m以内を目安としてマッチアップしている。
5	オンボールのトラップはよいが、トラップが終息したら直ちにマッチアップを開始している。
6	ヘルプサイドのディフェンスがミドルラインをまたぎ越していない。
7	オフボールの選手に対して、数的優位な守り方をしていない。(U15で予測に基づくプレーを除く)
8	オフボールのオフENSEのポジションチェンジに対し、スイッチしていない。
9	オフボールのディフェンスでは、マッチアップするプレイヤーを意識して移動している。

【チェック欄】

項目	1P/1Q		2P/2Q		3P/3Q		4P/4Q		延長1		延長2	
	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												

4. 違反内容 (赤旗の上がった事象)

チーム	P/Q	時間	警告内容	備考

5. 特記事項 (故意的な違反行為等特に報告が必要な事項があれば記入してください。)

<報告・提出の流れについて> ①コミッショナー-競技会主催者
 ※特記事項がある場合: ②競技会主催者-都道府県協会のマンツーマンディレクター(および関連団体等)、③マンツーマンディレクター-JBA

試合が終わった後、シート
 はバインダーに挟んでおい
 て下さい。コミッショナー
 委員の方で最後集めます。

黄旗があがった時に、チェッ
 クをしていきます。
 ※赤旗をあげるときの材料にな
 りますので、こまめにチェッ
 クをおきましょう。